



トーマス・ルフ展

2016年12月10日(土)→
2017年3月12日(日)

展覧会名	トーマス・ルフ展		
会期	2016年12月10日(土) → 2017年3月12日(日) 開場時間 / 10:00~18:00 (金・土曜日は20:00まで)		
	休場日 / 毎週月曜日(ただし1月2日、1月9日は開場)、12月29日~1月1日、1月10日		
会場	金沢21世紀美術館 展示室7~14	作品点数	約160点
料金	◎ 本展観覧券 一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円 ◎ 「工芸とデザインの境目」展との共通観覧券(2016年12月10日~2017年3月12日) 一般1,700円(1,400円) / 大学生1,400円(1,100円) / 小中高生700円(600円) / 65歳以上の方1,400円 ※ ()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金 前売りチケット: チケットぴあ tel.0570-02-9999 (Pコード[本展観覧券] 767-718、[共通観覧券] 767-716) ローソンチケット tel.0570-000-777 (Lコード[本展観覧券] 56908、[共通観覧券] 56971) 販売期間: 2017年3月12日まで		
主催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]、読売新聞社		
後援	テレビ金沢	協力	Lufthansa Cargo AG、全日本空輸(株)
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

展覧会について

トーマス・ルフ(1958年ドイツ、ツェル・アム・ハルマースバッハ生まれ)は、アンドレアス・グルスキーやトーマス・シュトゥールらとともにデュッセルドルフ芸術アカデミーでベルント&ヒラ・ベッヒャー夫妻に学んだ「ベッヒャー派」として、1990年代以降、現代の写真表現をリードしてきた存在です。本展では、世界が注目する写真家の、初期から初公開の最新作までを紹介します。ルフは初期に発表した高さ約2メートルにもなる巨大なポートレート作品で注目されました。それ以降、建築、都市風景、ヌード、天体などさまざまなテーマの作品を展開、それらを通じ、現代人にとりまく世界のあり方についてのユニークなヴィジョンを提示してきました。

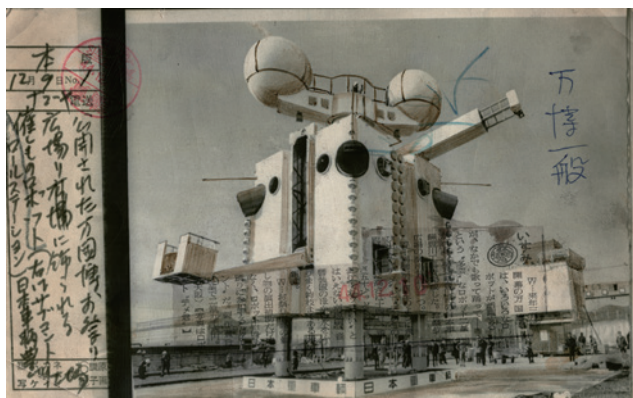
私たちの視覚や認識に深く組みこまれた写真というメディアそれ自体も、ルフ作品の重要なテーマのひとつです。ルフは自ら撮影したイメージだけでなく、インターネット上を流通するデジタル画像からコレクションしている古写真まで、あらゆる写真イメージを素材に用い、新たな写真表現の可能性を探究しています。本展は、初期作品である「Interieurs」や評価を高めた「Porträts」、少年時代からの宇宙への関心を背景とする「cassini」や「ma.r.s.」、インターネット時代の視覚・情報空間を問う「nudes」や「jpeg」、そして新作「press++」など全18シリーズ約160点で構成されます。

展覧会の特徴

日本では初めての本格的回顧展、 初期から最新作まで、主要シリーズでその作品世界を紹介。

現代ドイツを代表する写真家、トーマス・ルフ。国内の美術館で開催される彼の本格的な回顧展は、東京と金沢で開かれるこの展覧会が初となります。

本展は最初期作品である「Interieurs」や評価を高めた「Porträts」から、インターネット時代の視覚・情報空間を問う「jpeg」や「nudes」、さらに、ある新聞社のプレス写真アーカイブを入手したことから着想された最新シリーズ「press++」など、全18シリーズ、約160点の作品で構成されます。



《press++11.07》2016

私たちの時代の新たな「写真」表現。

デジタル技術やインターネットは「写真」を巡る環境を大幅に更新しました。ルフの作品はこうした時代にふさわしい新しい「写真」のあり方を私たちに問いかけます。さらに、「撮らない写真」や巨大なプリントサイズといったルフ作品の特徴には、写真表現の臨界を探ろうとするルフの姿勢が現れています。

トーマス・ルフ本人によるアーティスト・トークは金沢展のみの開催。

金沢では、トーマス・ルフ本人によるトークが開催されます。アーティスト本人から、制作コンセプトや作品のテーマ、彼にとっての写真の意味などを直接聞ける貴重な機会となるでしょう。

さらに作品が追加／展示空間との共振。

先行の東京会場と比較すると30点以上の作品が追加されました。また、それらの作品は妹島和世＋西沢立衛／SANAAの設計による当館の展示空間の中でどのように展示されるのかも見どころとなります。

関連プログラム

アーティスト・トーク

【講師】 トーマス・ルフ

【聞き手】 増田玲(東京国立近代美術館主任研究員)、田中義久(本展アートディレクター)、
中田耕市(当館キュレーター)

【日時】 2016年12月10日(土) 14:00~16:00

【会場】 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

【料金】 無料 【定員】 80名

【申込】 ウェブサイトにて11月25日(金) 10:00より申込受付開始(先着順)

※定員に達したため、申込受付を終了しました。

逐次通訳付

レクチャー

「トーマス・ルフ:アイデンティティの写真から、写真のアイデンティティへ」

【講師】 清水穰(写真研究・同志社大学教授)

【日時】 2017年1月28日(土) 14:00~15:30

【会場】 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

【料金】 無料

【定員】 80名

【申込】 事前予約不要、当日先着順

※都合により、プログラムの内容を変更する場合がございます。

関連書籍

カタログ

【編集】 東京国立近代美術館、金沢21世紀美術館、読売新聞社

【執筆】 増田玲(東京国立近代美術館)、中田耕市(金沢21世紀美術館)

【デザイン】 田中義久

【発行】 読売新聞東京本社

【仕様】 A4変形 / ソフトカバー / 272ページ

【価格】 3,500円

【発行日】 2016年8月31日

作家プロフィール

トーマス・ルフ

1958年、ドイツ、ツェル・アム・ハルマースバッハ生まれ。

1977年から85年までデュッセルドルフ芸術アカデミーでベルント&ベラ・ベッヒャー夫妻のもとで写真を学び、ドイツ人家庭の典型的な室内風景を撮り続けた「Interieurs(室内)」シリーズを皮切りに、友人たちの肖像を巨大なサイズに引き伸ばした「Porträts(ポートレート)」で大きな注目を集めました。以来、建築、都市風景、ヌード、天体などさまざまなテーマで作品を制作し、明確なコンセプトに基づいたシリーズとして展開しています。

1990年代以降は写真作品にデジタル処理を導入するとともに、インターネット上に氾濫する画像にマニピュレーションを加えた「nudes」、「jpeg」といったシリーズ、あるいは探査機がとらえた火星などの天文写真に加工を施す「cassini」「ma.r.s.」など、他者が撮影した写真を素材としてイメージそのものの再構築を試みます。このようにルフは一貫して写真というメディアの特性である情報性と表現性への検証を通じて、私たちが抱えている写真に対する既存概念に揺さぶりをかけ続けてきました。また、教育者としても2000年にデュッセルドルフ芸術アカデミーの教授に就任し2006年まで教鞭をとりました。

展覧会ではドクメンタ9(1992年)、ヴェネツィア・ビエンナーレ(1995年)など国際展への参加をはじめ、2001年から04年にかけてヨーロッパを巡回した回顧展や2012年のハウス・デア・クンスト(ミュンヘン)での大規模な個展を開催するなど、今日に至るまで世界各国での展覧会が開催され、現代ドイツを代表する写真家として活躍しています。



2

出展される
主なシリーズ

Porträts

一見ありふれた証明写真のようにも見えるポートレート。しかし巨大なサイズ(210×165cm)に引伸ばされた作品の前に立つと、そうした印象は一変します。ありふれた人物写真が、どこか不可解で不可思議な存在にすら見えてくるとすれば、そこには写真というメディア独自のメカニズムが働いているのではないのでしょうか。ルフの評価を高めた初期作品は、シンプルな手法でさまざまな問題を提起します。巨大なカラープリントという現代写真のフォーマットの先駆となったシリーズでもあります。



《Portrait (R.Müller)》1986
C-print, 210×165cm

3

l.m.v.d.r

「l.m.v.d.r」とは、モダニズム建築を代表するドイツ出身の建築家ルードヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエの頭文字。ルフはある美術館からミースの建築の撮影を依頼され、さらにミースのある時期の全建築作品を撮影するプロジェクトをてがめます。その過程で、ルフはすでに撮影されたミースの建築写真を徹底的に研究し、そのうえで自ら撮影し、あるいは既存の写真を収集し、さらにはそれらのイメージをデジタル処理することで、この近代建築の巨匠についての視覚的な探求を試みました。

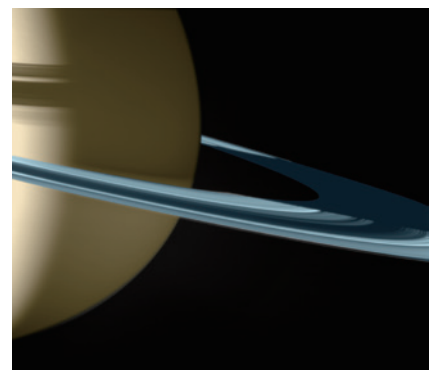


《w.h.s. 01》2000
C-print, 185×245cm

4

cassini

ルフは少年時代から一貫して宇宙への関心を抱き続けています。2008年に発表された「cassini」はNASA(アメリカ航空宇宙局)が1997年に打ち上げた宇宙探査船cassiniが撮影した土星とその衛星の画像を素材にした作品。ときに抽象的、幾何学的なデザインのようにも見える天体のイメージは、インターネット上で公開されている画像の色彩やトーンを操作することで生み出されたものです。



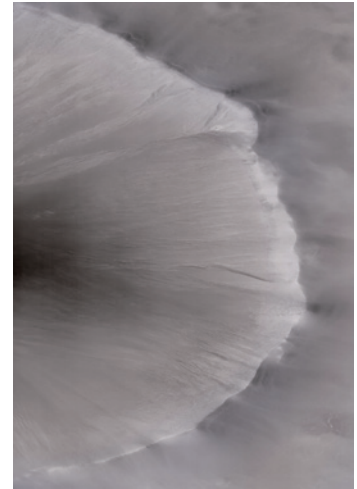
《cassini 10》2009
C-print, 98.5×108.5cm

5

ma.r.s.

「ma.r.s.」もまたNASAの探査船が撮影した画像を素材とする作品です。2006年以来火星を周回する探査船のカメラは、火星の表面のさまざまな情報を地球に送り続けています。ルフはその画像情報の角度や色彩をデジタル処理で加工することで、このはるか彼方で火星を見つづけるレンズを通じた「風景写真」の可能性を探ります。

※本展では「ma.r.s.」シリーズの3D作品も展示されます。



《ma.r.s. 19》2011
C-print, 255×185cm

6

photograms

このシリーズのタイトルとなっている「フォトグラム」とは、1920年代後半にモホイ=ナジ・ラスローらによって開発された写真技法のひとつで、カメラを用いず感光紙上に物体を置いて直接露光し、その影や透過する光をかたちとして定着させる技法です。ルフは2012年よりこの技法を用いた作品制作に取り組みはじめました。従来のフォトグラムではやり直しがきかず、モノクロームの表現に限定されるのに対して、かねてより作品制作にデジタル技術によるマニピュレーションを導入していたルフは、コンピューター上のヴァーチャルな「暗室」で物体の配置と色彩を自在に操作し、最終的な像をつくりあげています。



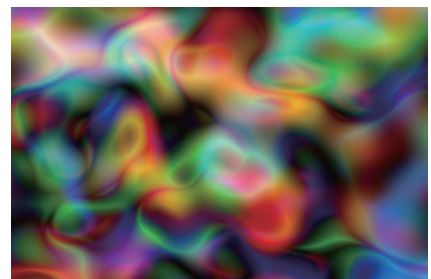
《phg.12》2015
C-print, 185×310cm

7

Substrates

インターネット上に溢れる、もはや計測することすら不可能な量の画像は、何らかの現実を表象しうるのでしょうか。それとも単にRGB3色の画素の組み合わせがつくる視覚的な刺激にすぎないと言えるのでしょうか。

ルフはネット上に氾濫する匿名のポルノグラフィに着目し、「nudes」シリーズの制作をはじめましたが、このシリーズではさらに「イメージ」の解体へと踏み込んでいます。日本の漫画やアニメから取り込んだ画像に原形がわからなくなるまでデジタル加工を繰り返し、画像から意味や情報を剥ぎとっています。



《Substrat 31 III》2007
C-print, 186×268cm

8

jpeg

「nudes」や「Substrate」シリーズと並んで、デジタル画像の解体が主題となっていますが、このシリーズではそうしたデジタル画像がもっている「構造」への関心が加わっています。シリーズ名のjpegとはデジタル画像の圧縮方式のひとつで、現在、全世界で使用されもっとも標準的なフォーマットの名称です。圧縮率を高めすぎるとブロックノイズが発生し、画面がモザイク状になってしまうという、この画像フォーマットの特徴を用いて、画像の構造そのものを視覚化しています。



9

《jpeg ny01》2004
C-print, 256×188cm

cycles

2008年より制作がはじめられたこのシリーズでは、ルフの関心は数学や物理学へと広がっています。イギリスの物理学者ジェームズ・クラーク・マクスウェル(1831-1879)の著した電磁気学の研究書の中に収められていた銅版画による電磁場の図版に触発されたルフは、さまざま数式がつくる線形を3Dプログラムによって再現し、コンピューター上の3次元空間で再構成しました。ルフによって平面作品へと変換された、こうした曲線の複雑な組み合わせは、惑星の軌道のようにも、あるいは抽象的なドロワーイングのようにも見えます。



10

《cycles 3065》2008
Inkjet print on canvas, 266×236cm

広報用画像

画像1～10を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

＜使用条件＞

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジット(© Thomas Ruff / VG Bild-Kunst, Bonn 2016)の明記が必要です。

※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送り下さい。

※アーカイブの為、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしく願いたします。